

種をまき、育てる荻窪

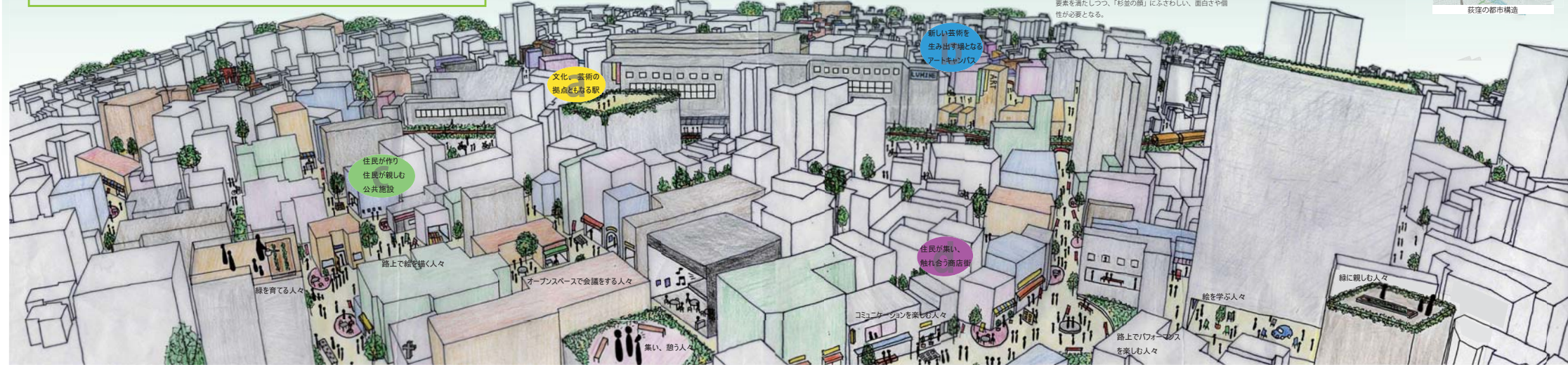
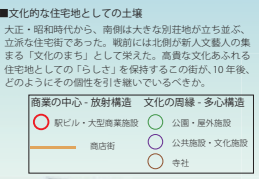
—あふれる活動、多彩なまちの作り方

時代を経て培われた文化的な土壌を生かし、ハード面やソフト面の整備という「種」をまくことから、市民参加の活動を多彩なものとしてそこから新しい文化的な「芽」が出ることに、そこから、市民参加の活動が活発な、一体感のあるまちが育っていく。

土壌

■駅周辺に集まる多様な要素
駅周辺には、南北に伸びる、個性豊かな個人商店の並ぶ商店街、充実した公共施設、歴史を誇る文化施設、住宅地の中の公園等、様々な要素が密集している。これらの点には、同時にこれらの場所を核として、多心的に街を使えるポテンシャルがある。

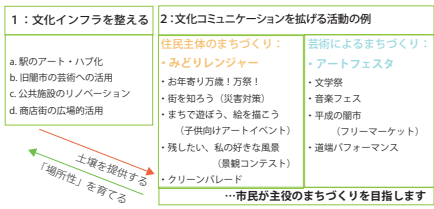
■都市活性化拠点「杉並の顔」
荻窪は杉並区で唯一の都市活性化拠点として位置づけられており、「働く、遊ぶ、憩う、学ぶ、学ぶ」などの多様な要素を持ち合わせることが期待される土地である。これらの要素を活かしつつ、「杉並の顔」にふさわしい、面白さや個性が必要となる。



種まき

1：文化インフラを整える
既存の空間にちょっとした整備を加えたり、新しい仕組みを設けることで、新しい「場所性」を与え、活動の生まれる土壌を作ります。

2：文化コミュニケーションを拡げる
駅周辺に集まる様々な要素、商店街・公共施設・駅などの空間を活用し、拠点多心のイベントやテーマ活動を行うことで、住みよいまちに必要な要素や、「杉並の顔」となる要素を荻窪に根付かせます。イベント・テーマ活動ともに、テーマ間や、市民を巻き込む仕掛けを用意し、市民がまちづくりの主役となる機会を創出します。



文化コミュニケーションを拡げる

住民主体のまちづくり-みどりレンジャー

①街の緑化に貢献する「みどりレンジャー」を募り、市民と小中学生で構成する同乗会を結成。

②みどりレンジャーは、街の緑化の計画をたてたり、緑化の推進イベントの企画運営を行ったり、街の樹木の保全を担う。

③同乗会の会費と、小中学校にて呼びかけた緑のチケット（苗木）にて苗木を購入。まちの緑化に充てる。

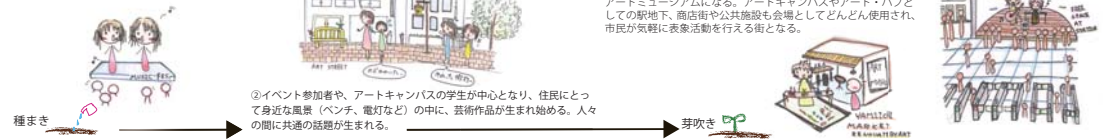
④同乗会では子どものまちづくり参加の機会提供、緑の発見として機能、まちづくりの主体へ…



芸術によるまちづくり-アートフェスタ

①拠点多心の芸術イベントを行う
〔荻窪音楽祭〕を、同日・多拠点で開催するイメージ

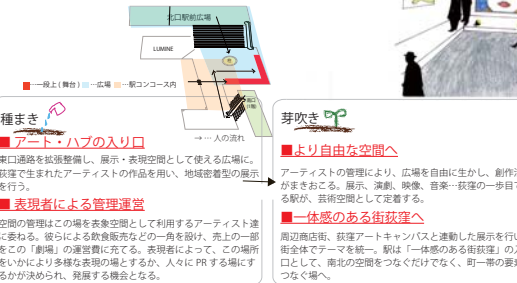
②イベント参加者や、アートキャンパスの学生が中心となり、住民にとって身近な風景（ベンチ、電灯など）の中に、芸術作品が生まれ始める。人々の間に共通の話題が生まれる。



文化インフラを整える

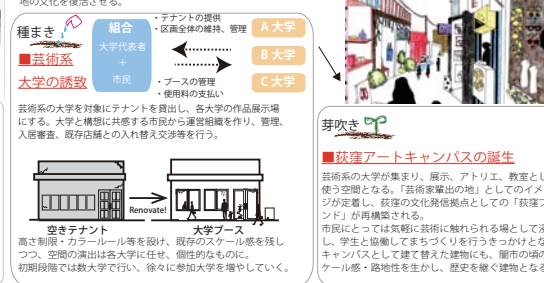
a. 駅のアート・ハブ化

荻窪駅は、市民主体の街の中心として、街のハブとしての役割を担う。街を繋ぐ、自身も活動・イベントの舞台として生まれ変わり、街は南北一体となる。



b. 旧闇市の芸術活用

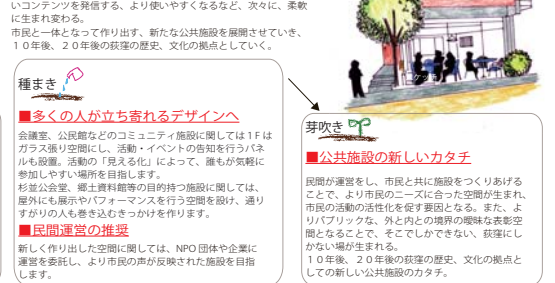
荻窪駅北口の再開発予定地（旧闇市）では、スケール感を利用して、「荻窪アートキャンパス」へ、新人文藝人輩出の地の文化を復活させる。



c. 公共施設リノベーション

駅周辺地区を囲うようにして存在する、荻窪の歴史や文化を感じられる公共施設。これらの施設がより多くの人が利用する、より面白いコンテンツを発信する、より使いやすくなるなど、徐々に、柔軟に生まれ変わる。

市民と一体となって作り出す、新たな公共施設を展開させていき、10年後、20年後の荻窪の歴史、文化の拠点としていく。



d. 貸出商店街

南北に放射状に伸びる商店街も荻窪を形作る大きな要素。ここを荻窪まちづくりの拠点と捉え、単なる「通り」から「つながりを生む空間」に変化させることにより、荻窪のまちはさらなる一体感を持つこととなる。

